

初任教師の心理的発達に関する研究

宇 都 慎一朗*・今 林 俊 一**

(2005年10月17日 受理)

A Study of Psychological Development in Novice Teachers

UTO Shinichiro・IMABAYASHI Shunichi

キーワード：初任教師の成長，初任教師の悩み，初任教師のイメージ，高等学校教諭

1. 問題と目的

2004年の文部科学省の統計によると，教師の精神性疾患による休職者数は3194名で過去10年間増加傾向にあり，教師のメンタルヘルスの問題は生徒に劣らず深刻な状況になっている。教師を対象としたメンタルヘルスやバーンアウトに関する先行研究は数多くなされており，教育問題の多様化と深刻化，教職員の公務増加による多忙化，学校現場の荒廃など教師を取り囲む様々な背景が教師の心身疲弊に関与していることが明らかとなっている（落合，2003 田上・山本・田中，2004）。小・中学校の教師では若い教師ほどバーンアウトしやすいことが報告されており（宗像，1988 松本・河上，1994），これは，若手教師はベテラン教師に比べ，子どもとのかかわりを重視する一方で教科指導・生徒指導に関わる毎日の教育活動の中での悩みを抱える傾向があることが関係していると考えられている（伊藤，2000）。

ところで，初任教師は，「学ぶ人」から「教える人」に180度立場が転換した状況から教職を歩むことになる。そのために初任教師は，これまでの自己の「被教育体験」と「教育論」によって描いていた理想の教師観（教師像）をもって現場に臨むが，就任後，現場で繰り広げられる実際の仕事とのギャップに苦しみ，そしてリアルティショックを受けることになる。伊藤（2000）によれば，自らの信念を持って理想の教育を求めれば求めるほど現実とのギャップに無力感を覚える教師も増えているという。教師の場合，初任期における多くの教職継続の危機感や戸惑いの経験を乗り越えて教師のアイデンティティを徐々に確立していくと報告されている（小川，1985）が，アイデンティティの確立とメンタルヘルスの向上には深い相関関係があると思われる。つまり，初任教師が「教

* 鹿児島県立甲陵高等学校

** 鹿児島大学教育学部

師のアイデンティティ」を確立できる支援策を講じることが初任教師のバーンアウトを予防することになりメンタルヘルスを向上させる効果に繋がることが予想される。

そこで本研究では、初任教師の成長や自己効力感、メンタルヘルスの向上に関わる支援方策を探るために、初任教師自身が捉える「初任教師の成長」「初任教師の悩み」「初任教師のイメージ」といった初任教師観を闡明にすることを目的とした。

浅田(2002)は、初任教師の抱える課題として、①教師自身に関する課題、②子どもに関する課題、③家庭・保護者に関する課題の3つを挙げており、初任教師が挫折する原因の要素がこれらの課題の中に含まれていることが推察される。初任教師が挫折する理由の1つに、授業作りや子どもの対応の面において経験が乏しいために問題を解決するリソースの所在が分からないといった点から疲労し、自己研修の方策を心得ていないために自信を喪失することが考えられる(木原, 2002)。

初任教師のみならず教師の成長は、周りの人間のサポート、ことに他者との対話や協同の有無といったインタラクションに大きく依存していると数多くの研究は指摘している。初任教師の一般的な援助からカウンセリングまで多様な役割でサポートするメンターとしての初任教師指導員や経験豊富な教師のアドバイスは、初任教師の成長や悩み解決の支援に大きな影響力を与えていることは確かである。しかし、メンターのアドバイスが、メンター自身の信念に基づいた戦略(指導方策)で講じられていることや、初任者研修が実践的トレーニングを重視している(浅田, 2002)のために、初任教師が希求する視点とメンターの指導の視点の間に少なからずズレの構造があるのではないかと予想される。つまり、初任教師自身が教師としては知っていて当然であると捉えている固定観念から派生している自負心や恥辱心から、他人に相談したいが相談しにくいために内心に秘め事として抱えている「教師観」を闡明にすることが、初任教師の悩みや成長をサポートするメンターにとって重要なリソースとなると考えられる。また、初任教師にとっては、これまで秘奥にしていた「教師観」を明確に捉えることは自己成長を目指すためのリソースともなり、また、他の初任教師の「教師観」を認識することは自己効力感や自己肯定感を高める契機になることが十分に期待できる。

2. 目的

「初任教師の成長」「初任教師の悩みや困惑」「初任教師のイメージ」などの初任教師観について、初任教師自身が抱く初任教師のイメージ(以下、初任教師観とする)の観点で回答する調査を実施すると共に、初任教師が予想する生徒の初任教師観(以下、被初任教師観)について調査を実施し、それぞれにどのような傾向がみられるのかを明らかにすることを第1の目的とする。さらに、第2の目的として、初任の教師自身の回答と初任の教師からみた生徒の抱く初任教師観を比較分析し、どのような共通性や差異性があるのかを回答の傾向等から明らかにする。

3. 項目作成

方法

調査内容 「初任教師の成長」「初任教師の悩みや困惑」「初任教師のイメージ」に関する初任教師観尺度の項目収集のために、高校生を対象とした自由記述式による調査を実施する。調査は、「初任教師の成長」に関しては、1. 初任教師の成長をどのように捉えているのか、2. 初任教師の成長するところ、3. 望まれる初任教師の成長像、4. 初任教師の成長に必要なことの以上4題を、「初任教師の悩みや困惑」に関しては、5. 初任教師の悩みや困惑の内容、6. 初任教師の悩みや困惑の解決スキルの以上2題を、「初任教師のイメージ」に関しては、7. 初任教師のイメージをどのように捉えているのかの1題、総計7題で構成する。調査終了後に、KJ法による整理で類似した内容ごとにカテゴライズした各題の項目を作成し、妥当性の検討を行う。

調査時期 2005年6月

調査対象 A県内の県立高等学校の高校3年生75名。

調査手続 調査は、2クラスの学級担任に調査目的を説明した後に回収する留め置き調査法で実施した。その結果、70名の回答を得た（回収率93.3%）。

結果

全項目自由記述方式による調査の結果、1. 初任教師の成長をどのように捉えているのか：68項目、2. 初任教師の成長するところ：75項目、3. 望まれる初任教師の成長像：62項目、4. 初任教師の成長に必要なこと：79項目、5. 初任教師の悩みや困惑の内容：92項目、6. 初任教師の悩みや困惑の解決スキル：62項目、7. 初任教師のイメージをどのように捉えているのか：65項目の回答をそれぞれ得た。項目ごとに、回答のカテゴリー化を現職教員2名の協力を得て3名で実施した。

初任教師の成長 自由記述式で得た各題の項目から、調査に関わりのない項目や具体性に欠ける抽象的な感想や思想の項目を削除した。例えば、1. の質問については「わからないところがわかるようになる」「環境によって成長する」など4項目、3. の質問については「しっかりしてほしい」「大きな人」など6項目、4. 「環境」「勉強」「気合」「自信」など9項目である。これらの項目を削除後、類似性の高い項目をカテゴライズした結果、1. 初任教師の成長をどのように捉えているのか：6項目、2. 初任教師の成長するところ：7項目、3. 望まれる初任教師の成長像：7項目、4. 初任教師の成長に必要なこと：11項目、以上にまとまった（Table 1）。

初任教師の悩みや困惑 自由記述式で得た各題の項目から、調査に関わりのない項目や具体性に欠ける抽象的な感想や思想の項目を削除した。例えば、5. の質問については「生徒のことで悩む」「生徒の生活」「いろんなこと」など3項目、6. の質問については「挨拶をする」の1項目である。これらの項目を削除後、類似性の高い項目をカテゴライズした結果、5. 初任教師の悩みや困惑の内容：12項目、6. 初任教師の悩みや困惑の解決スキル：10項目にまとまった（Table 1）。

初任教師のイメージ 自由記述式で得た各題の項目から、調査に関わりのない項目や具体性に欠ける抽象的な感想や思想の項目を削除した。例えば、「とてもすごいと思う」「少しだけ怖そうな感じ」「教職として頑張っていくのかなと思う」など5項目である。これらを削除後、類似性の高い項目をカテゴライズした結果、7. 初任教師のイメージをどのように捉えているのか：10項目にまとまった (Table 1)。

Table 1 「初任教師の成長」「初任教師の悩みや困惑」「初任教師のイメージ」に関する初任教師観尺度

小題タイトル	項目	自由記述式で得られた数
1. 「初任教師の成長」をどのように捉えているか。	教育現場で授業やクラスのまとめ方、生徒の指導などを経験することによって成長する。	19
	生徒とともに触れ合った学校生活をするによって成長する。	11
	人間は誰でも日々成長していくものであるから初任教師も成長する。	9
	教師という仕事に慣れることによりいろいろと学ぶことも見えてくるので成長する。	6
	生徒や他の教師から情報を吸収し学ぶことにより成長する。	5
	周りの教師からいろんなことを聞いたり教えてもらうことによって成長する。	4
計6項目		
2. 「初任教師が成長するところ」をどのように捉えているか。	授業の教え方や進め方。	24
	生徒に対しての説諭の仕方や指導力。	15
	教育のあり方や考え方。	9
	内心面や精神面。	8
	教師としての態度の形成。	8
	生徒各個人の状態を観察できるようになり、「まとめる」ことができるようになる。	6
生徒とのコミュニケーションのとり方や接し方。	5	
計7項目		
3. 「望まれる初任教師の成長像」をどのように捉えているか。	しっかりと知識を持って、生徒の視線で楽しく分かりやすい“幅広い授業”ができる先生。	22
	生徒のことを真剣に考え、悩みや不安の相談に親身に対応してくれる先生。	12
	生徒一人ひとりの個性を大事にし、生徒理解ができる先生。	8
	厳しく指導もでき、しっかりと褒めることができる先生。	5
	生徒たちから好かれる元気で明るく楽しい先生。	4
	生徒に対して平等に接することができる先生。	3
生徒に対して思いやりや愛情の気持ちをもって接してくれる先生。	2	
計7項目		
4. 「初任教師の成長にはどのようなことが必要(大切)である」と捉えているか。	少数ではなく多数の生徒と積極的にコミュニケーションをとる。	15
	自分のなりたい理想の教師像を持ち、近づくために日々努力する。	10
	いろんなことに挑戦し経験や失敗を積み重ねていく。	9
	自分はまだまだ未熟だという向上心を持つ。	7
	生徒に対して思いやり(愛情)の気持ちを持って接する。	6
	生徒や他の先生方の意見を素直に聞く耳を持つ。	6
	他の先生方に授業や生徒指導の仕方をアドバイスしてもらう。	5
	多くの生徒を観察する目を養い生徒の考えや気持ちを理解する。	5
	生徒への言動が不適切であったら反省し直すことができる心。	3
いろんな人々と触れ合い、多様な価値観を理解することが大切である。	2	
生徒が先生に協力することが大切である。	2	
計11項目		

小題タイトル	項目	自由記述式で 得られた数
5. 「初任教師の 悩みや困惑」 をどのように 捉えているか。	授業が理想のように上手くない。	32
	生徒の授業中の私語や問題行動等の対処方法が分からない。	16
	生徒の接し方（支援）が分からない。	9
	生徒との付き合い方が分からない。	6
	先生という職に慣れにくいので何をするにしても分からないことが多い。	6
	生徒とのコミュニケーションのとり方が分からない。	5
	他の先生（校長や教頭含む）との付き合い方が分からない。	4
	他の先生とのコミュニケーションのとり方が分からない。	4
	生徒の行動や思考を理解できない。	3
	保護者との付き合い方が分からない。	1
	学校の方針と自分の教育理念が適応していない。	1
	生徒の成績が不振でどのように対応すればよいか分からない。	1
		計12項目
6. 「初任教師の 悩み解決」に ついてどのよ うに捉えてい るか。	初任教師や年齢の近い先生方に相談している。	22
	ベテランの先生方にアドバイスをしてもらう。	10
	“頑張ろう”という気持ちでいろんなことに挑戦して試行錯誤を繰り返す。	6
	生徒に相談している。	5
	自分で問題点を探り解決策を考えている。	5
	外部の相談機関（カウンセラー含む）に相談している。	4
	親しい友人に相談している。	3
	時間が過ぎれば解決すると思込み、誰にも相談できず悩んだままである。	3
	家族に相談している。	1
問題や不安に直面せず、趣味や娯楽で気分を紛らわしている。	1	
		計10項目
7. 「初任教師」 のイメージを どのように捉 えているか。	授業の教え方が慣れていないので、生徒にとっては分かりにくい授業をしている。	12
	教職に不慣れであるので“先生”としては生徒に頼りにされていない。	8
	緊張感を持っている。	6
	初々しくて新鮮で素人っぽい。	6
	若くて元気があり何事にも積極的に挑戦している。	6
	生徒に兄や姉みたいに見られており親しみをもって話しかけられやすい。	6
	生徒の指導力に自信が無く、適切な注意ができない。	4
	歳が生徒に近いので、生徒の心の中では「先生」と認められない。	3
	まじめであるが右往左往しておどおどしている。	3
歳が近いので生徒の気持ちを理解しやすい。	3	
		計10項目

妥当性の検証 現職教員2名及び、心理専門家1名に協力を得て、カテゴライズした各題の項目が、質問の意図に妥当であるかどうかを4名で検討した。その結果、1～6の小題の項目については妥当であると判断を得たが、7.の「初任教師のイメージ」に関する項目については、内容を補足・充実するために、教師の自己効力感に関する基礎的研究：松田・鈴木（1997）の『教師のコンピテンスに関わる21の事項』を参考にして、(1)「自己向上の意欲が高く人陰で教育者として必要な勉学を熱心に励んでいる」の項目と、教師のストレスとサポート体制に関する研究：石川・中野（2001）の『教師のストレスと心理特性に関するアンケート』を参考にして(14)「教師として働け

る喜びを心から感謝し生きがいを持っている。」の2項目を追加した。また、現職教員の経験からの意見で、(11)「一人ひとりの生徒に応じた、適切な進路指導が分からない。」と(12)「若いために年輩の先生や保護者、生徒らから学校行事や部活動等で期待される。」、(15)「学習で分からないところを個人で質問したとき、親切・丁寧に分かるまで説明してくれる。」の3項目をさらに追加し、計15項目の尺度構成とした。項目作成後、総計68項目の文章表現が適切でない箇所を大学院生6名の協力を得てチェックし、各項目の質を変わないように修正して尺度を完成させた(Table 2)。

Table 2 「初任教師の成長」「初任教師の悩みや困惑」「初任教師のイメージ」に関する初任教師観尺度

小題タイトル	項目
1. 「初任教師の成長」をどのように捉えているか。	(1) 人間は誰でも日々成長していくものであるから初任教師も成長する。 (2) 教師という仕事に慣れることによりいろいろと学ぶことも見えてくるので成長する。 (3) 周りの教師からいろんなことを聞いたり教えてもらうことによって成長する。 (4) 教育現場で授業やクラスのまとめ方、生徒の指導などを経験することによって成長する。 (5) 生徒とともに触れ合った学校生活をするによって成長する。 (6) 生徒や他の教師から情報を吸収し学ぶことにより成長する。
2. 「初任教師が成長するところ」をどのように捉えているか。	(1) 生徒各個人の状態を観察できるようになり、「まとめる」ことができるようになる。 (2) 生徒とのコミュニケーションのとり方や接し方。 (3) 授業の教え方や進め方。 (4) 生徒に対しての説諭の仕方や指導力。 (5) 内心面や精神面。 (6) 教育のあり方や考え方。 (7) 教師としての態度の形成。
3. 「望まれる初任教師の成長像」をどのように捉えているか。	(1) 生徒一人ひとりの個性を大事にし、生徒理解ができる先生。 (2) しっかりとした知識を持って、生徒の視線で楽しく分かりやすい“幅広い授業”ができる先生。 (3) 生徒のことを真剣に考え、悩みや不安の相談に親身に対応してくれる先生。 (4) 生徒たちから好かれる元気で明るく楽しい先生。 (5) 生徒に対して思いやりや愛情の気持ちをもって接してくれる先生。 (6) 厳しく指導もでき、しっかりと褒めることができる先生。 (7) 生徒に対して平等に接することができる先生。
4. 「初任教師の成長にはどのようなことが必要(大切)である」と捉えているか。	(1) いろんな人々と触れ合い、多様な価値観を理解することが大切である。 (2) 少数ではなく多数の生徒と積極的にコミュニケーションをとる。 (3) 他の先生方に授業や生徒指導の仕方をアドバイスしてもらう。 (4) 生徒に対して思いやり(愛情)の気持ちを持って接する。 (5) 多くの生徒を観察する目を養い生徒の考えや気持ちを理解する。 (6) 生徒や他の先生方の意見を素直に聞く耳を持つ。 (7) 自分のなりたい理想の教師像を持ち、近づくために日々努力する。 (8) 自分はまだまだ未熟だという向上心を持つ。 (9) いろんなことに挑戦し経験や失敗を積み重ねていく。 (10) 生徒への言動が不適切であったら反省し直すことができる心。 (11) 生徒が先生に協力することが大切である。

小題タイトル	項目
5. 「初任教師の悩みや困惑」をどのように捉えているか。	(1) 生徒との付き合い方が分からない。 (2) 保護者との付き合い方が分からない。 (3) 他の先生（校長や教頭含む）との付き合い方が分からない。 (4) 先生という職に慣れにくいので何をしても分からないことが多い。 (5) 生徒の接し方（支援）が分からない。 (6) 生徒の授業中の私語や問題行動等の対処方法が分からない。 (7) 生徒の行動や思考を理解できない。 (8) 生徒とのコミュニケーションのとり方が分からない。 (9) 他の先生とのコミュニケーションのとり方が分からない。 (10) 授業が理想のように上手くいかない。 (11) 学校の方針と自分の教育理念が適応していない。 (12) 生徒の成績が不振でどのように対応すればよいか分からない。
6. 「初任教師の悩み解決」についてどのように捉えているか。	(1) 初任教師や年齢の近い先生方に相談している。 (2) ベテランの先生方にアドバイスをしてもらう。 (3) 外部の相談機関（カウンセラー含む）に相談している。 (4) 親しい友人に相談している。 (5) 生徒に相談している。 (6) 家族に相談している。 (7) 自分で問題点を探り解決策を考えている。 (8) 時間が過ぎれば解決すると思ひ込み、誰にも相談できず悩んだままである。 (9) “頑張りよう”という気持ちでいろんなことに挑戦して試行錯誤を繰り返す。 (10) 問題や不安に直面せず、趣味や娯楽で気分を紛らわしている。
7. 「初任教師」のイメージをどのように捉えているか。	(1) 自己向上の意欲が高く、人陰で教育者として必要な勉学を熱心に励んでいる。 (2) 歳が生徒に近いので、生徒の心の中では「先生」と認められない。 (3) まじめであるが右往左往しておどおどしている。 (4) 緊張感を持っている。 (5) 初々しくて新鮮で素人っぽい。 (6) 若くて元気があり何事にも積極的に挑戦している。 (7) 教職に不慣れであるので“先生”としては生徒に頼りにされていない。 (8) 生徒に兄や姉みたいに見られており親しみをもって話しかけられやすい。 (9) 歳が近いので生徒の気持ちを理解しやすい。 (10) 生徒の指導力に自信が無く、適切な注意ができない。 (11) 一人ひとりの生徒に応じた、適切な進路指導が分からない。 (12) 若いために年輩の先生や保護者、生徒らから学校行事や部活動等で期待される。 (13) 授業の教え方が慣れていないので、生徒にとっては分かりにくい授業をしている。 (14) 教師として働ける喜びを心から感謝し生きがいを持っている。 (15) 学習で分からないところを個人で質問したとき、親切・丁寧に分かるまで説明してくれる。

4. 調査の実施

調査内容

①「初任教師の成長」「初任教師の悩みや困惑」「初任教師のイメージ」に関する初任教師観尺度 Table 2 に示したように初任教師観尺度は、「初任教師の成長」に関して31項目、「初任教師の悩みや困惑」に関して22項目、「初任教師のイメージ」に関して15項目、以上総計68の項目から構成

されている。各項目についての回答、{そう思う、ややそう思う、どちらとも言えない、あまりそう思わない、そう思わない}の5件法で実施し、それぞれ5点、4点、3点、2点、1点と換算した。回答は、初任教师自身が初任教师観で回答する欄と初任教师からみた初任教师に対する生徒の意識を記入する欄の2箇所を項目ごと位置付け、項目はランダムに配置した構成とした。

②フェイスシート

フェイスシートでは、①性別(男性、女性)、②教職歴(新卒、非常勤経験あり、期限付き経験あり)、③他の職業歴(ない、ある(年数))、④調査結果の関心(ある、ない)の4項目で構成して尋ねた。

調査時期 2005年6月下旬～7月下旬

調査対象 A県内の平成17年度採用の高等学校教諭64名全員を対象として実施した。

調査手続 2005年6月下旬に初任教师が配属されている各学校宛に質問紙を郵送する、郵送調査で実施した。期限は約1ヶ月間設定し、回収は郵送で行った。その結果、37名の回答を得た(回収率57.8%)。

5. 結果

(1) 被験者の属性

フェイスシート項目を基に、被験者の個人的属性の内訳をまとめた(Table 3)。男女比はほぼ1:1の均等の比率であったが、教職歴では、大学卒業直後に教員になった新卒の初任教师が7人(約19%)、非常勤や期限付きを経験した初任教师が30名(約81%)と、5人中4人以上の割合の被験者が非常勤や期限付き経験者であることがわかった。教職以外の職業経験者は全体の約30%であった。最後に、本調査の「初任教师観」に関して関心があるかないかの項目については、「ある」の回答数が約78%で関心の高い被験者が多いことがわかった。

Table 3 被験者の内訳

項目	分類	人数	()は%	平均経歴月
性別	男性	19	(51.4)	
	女性	18	(48.6)	
教職歴	新卒	7	(18.9)	—
	非常勤歴	1	(2.7)	2.0
	期限付き歴	24	(64.9)	20.6
	非常勤・期限付き歴	5	(13.5)	49.8*
他の職業歴	ない	27	(73.0)	—
	ある	10	(27.0)	30.7
関心	ある	29	(78.4)	
	ない	8	(21.6)	

*非常勤歴と期限付き歴を加算した平均値を示す。

(2) 初任教師自身による「初任教師観」の傾向分析

調査結果は、項目を小題（計7題）に区分して、得点（平均値・SD）、性差、因子分析（小題7のイメージのみ）についてまとめた。

1. 初任教師の成長をどのように捉えているのか

平均値及び標準偏差を算出した結果、6項目のいずれの項目も平均値が4点台後半と高得点であることがわかった（Table 4）。次に、男性初任教師・女性初任教師の2つの回答について、項目ごとに平均値の差の検定を行った。その結果、6項目中の1つの項目が男性>女性〔(1) $t=1.84$, $df=35$, $p<.05$ 〕, 2項目が男性<女性〔(2) $t=1.95$, (5) $t=1.80$ (いずれも $df=35$, $p<.05$ 〕で有意差がみられた。

2. 初任教師の成長するところ

いずれの項目も平均値が4点台を超えており、(3)・(4)が $M=4.65$ と最高値の結果となっている（Table 4）。男性初任教師と女性初任教師の2つの回答には、有意差がみられる項目はなかった。

3. 望まれる初任教師の成長像

いずれの項目も4点台を超えた平均値になっている（Table 4）。平均値が最も高い項目は(3)の $M=4.70$ で、最も低い平均値の項目は(4)の $M=4.11$ であった。男性初任教師と女性初任教師の2つの回答には、有意差がみられる項目はなかった。

4. 初任教師の成長に必要なこと

(1)～(10)の項目についてはいずれも平均値が4点台を超えている（Table 4）。(11)の項目は他の項目と比較して $M=3.30$ と低い。男性初任教師・女性初任教師の平均値の検定の結果、2項目で男性<女性〔(1) $t=1.76$, (6) $t=2.27$ (いずれも $df=35$, $p<.05$ 〕の有意差がみられた。

5. 初任教師の悩みや困惑の内容

最も高い平均値の項目は(10)の $M=4.11$ でこの項目のみが4点台であった（Table 4）。他の項目については、2点台後半から3点台前半の範囲の平均値となっていた。男性初任教師・女性初任教師の平均値の検定の結果、6項目で男性<女性〔(2) $t=3.02$, $p<.01$, (5) $t=2.35$, $p<.05$, (6) $t=3.06$, $p<.01$, (8) $t=1.95$, $p<.05$, (10) $t=2.46$, $p<.01$, (12) $t=1.81$, $p<.05$ (いずれも $df=35$ 〕の有意差がみられた。

6. 初任教師の悩みや困惑の解決スキル

平均値の高い項目と低い項目の差がかなり開いた結果となっている（Table 4）。平均値の高い項目は、(2) $M=4.57$ や(1) $M=4.11$ であった。一方、平均値の低い項目は、(8) $M=1.89$ や(5) $M=1.76$ であった。男性初任教師・女性初任教師の平均値の検定の結果、2項目で男性>女性〔(5) $t=1.86$, (7) $t=1.72$ (いずれも $df=35$, $p<.05$ 〕の有意差がみられた。

Table 4 初任教師の初任教師観と被初任教師観の関係

	初任教師観		被初任教師観		r	t 値	関係
	平均値	SD	平均値	SD			
1.「初任教師の成長」をどのように捉えますか。							
(1) 人間は誰でも日々成長していくものであるから初任教師も成長する。	4.92	0.08	4.08	1.02	0.12	5.03***	初>被
(2) 教師という仕事に慣れることによりいろいろと学ぶことも見えてくるので成長する。	4.62	0.24	3.81	1.05	0.35	5.10***	初>被
(3) 周りの教師からいろんなことを聞いたり教えてもらうことによって成長する。	4.65	0.29	4.00	1.17	0.38*	3.92***	初>被
(4) 教育現場で授業やクラスのまとめ方, 生徒の指導などを経験することによって成長する。	4.84	0.14	4.19	0.94	0.39*	4.44***	初>被
(5) 生徒とともに触れ合った学校生活をすることによって成長する。	4.81	0.21	4.14	0.95	0.55**	5.02***	初>被
(6) 生徒や他の教師から情報を吸収し学ぶことにより成長する。	4.76	0.24	4.16	0.75	0.35*	4.35***	初>被
2.「初任教師が成長するところ」をどのように捉えますか。							
(1) 生徒各個人の状態を観察できるようになり, 「まとめる」ことができるようになる。	4.22	0.56	3.59	0.98	0.61**	4.76***	初>被
(2) 生徒とのコミュニケーションのとり方や接し方。	4.49	0.53	3.92	1.06	0.41*	3.40***	初>被
(3) 授業の教え方や進め方	4.65	0.35	4.35	1.14	0.40*	1.72*	初>被
(4) 生徒に対しての説諭の仕方や指導力。	4.65	0.40	3.95	1.13	0.52**	4.42***	初>被
(5) 内心面や精神面。	4.27	0.42	3.73	0.87	0.38*	3.78***	初>被
(6) 教育のあり方や考え方。	4.30	0.60	3.35	0.95	0.27	5.47***	初>被
(7) 教師としての態度の形成。	4.41	0.69	3.68	1.13	0.44**	4.14***	初>被
3.「望まれる初任教師の成長像」をどのように捉えますか。							
(1) 生徒一人ひとりの個性を大事にし, 生徒理解ができる先生。	4.46	0.76	4.59	0.86	0.65**	ns	
(2) しっかりとした知識を持って, 生徒の視線で楽しく分かりやすい“幅広い授業”ができる先生。	4.59	0.86	4.51	0.87	0.73**	ns	
(3) 生徒のことを真剣に考え, 悩みや不安の相談に親身に対応してくれる先生。	4.70	0.33	4.70	0.60	0.61**	ns	
(4) 生徒たちから好かれる元気で明るく楽しい先生。	4.11	0.77	4.59	0.64	0.10	-2.64**	初<被
(5) 生徒に対して思いやりや愛情の気持ちをもって接してくれる先生。	4.41	0.91	4.73	0.37	0.77**	-3.15**	初<被
(6) 厳しく指導もでき, しっかりと褒めることができる先生。	4.68	0.61	4.16	1.08	0.54**	3.47**	初>被
(7) 生徒に対して平等に接することができる先生。	4.57	0.42	4.62	0.52	0.47**	ns	
4.「初任教師の成長にはどのようなことが必要(大切)である」と捉えますか。							
(1) いろんな人々と触れ合い, 多様な価値観を理解することが大切である。	4.73	0.31	3.68	0.89	0.25	6.61***	初>被
(2) 少数ではなく多数の生徒と積極的にコミュニケーションをとる。	4.54	0.64	4.00	0.83	0.61**	4.29***	初>被
(3) 他の先生方に授業や生徒指導の仕方をアドバイスしてもらう。	4.46	0.59	3.92	1.13	0.46**	3.33***	初>被
(4) 生徒に対して思いやり(愛情)の気持ちを持って接する。	4.54	0.48	4.54	0.64	0.61**	ns	
(5) 多くの生徒を観察する目を養い生徒が考えや気持ちを理解する。	4.70	0.27	4.24	1.08	0.65**	3.48***	初>被
(6) 生徒や他の先生方の意見を素直に聞く耳を持つ。	4.70	0.27	4.22	0.95	-0.03	2.64**	初>被
(7) 自分のなりたい理想の教師像を持ち, 近づくために日々努力する。	4.73	0.26	3.97	0.97	0.37*	4.98***	初>被
(8) 自分はまだまだ未熟だという向上心を持つ。	4.68	0.34	3.84	1.20	0.40*	5.03***	初>被
(9) いろんなことに挑戦し経験や失敗を積み重ねていく。	4.76	0.24	3.84	1.25	0.43**	5.53***	初>被
(10) 生徒への言動が不適切であったら反省し直すことができる心。	4.68	0.39	4.57	0.64	0.16	ns	
(11) 生徒が先生に協力することが大切である。	3.30	1.21	2.73	1.09	0.63**	3.72***	初>被

	初任教師観		被初任教師観		r	t 値	関係
	平均値	SD	平均値	SD			
5. 「初任教師の悩みや困惑」をどのように捉えますか。							
(1) 生徒との付き合い方が分からない。	3.11	1.77	2.86	1.56	0.49**	ns	
(2) 保護者との付き合い方が分からない。	3.41	1.69	3.27	1.31	0.74**	ns	
(3) 他の先生（校長や教頭含む）との付き合い方が分からない。	2.95	1.66	2.81	1.21	0.27	ns	
(4) 先生という職に慣れにくいので何をやるにしても分からないことが多い。	3.49	1.37	3.35	1.46	0.58**	ns	
(5) 生徒の接し方（支援）が分からない。	2.97	1.58	3.16	1.25	0.77**	ns	
(6) 生徒の授業中の私語や問題行動等の対処方法が分からない。	2.89	1.71	3.22	1.06	0.55**	-1.74*	初<被
(7) 生徒の行動や思考を理解できない。	2.81	1.32	3.32	1.50	0.50**	-2.62**	初<被
(8) 生徒とのコミュニケーションのとり方が分からない。	2.84	1.47	3.05	1.33	0.76**	ns	
(9) 他の先生とのコミュニケーションのとり方が分からない。	2.86	1.68	2.62	1.02	0.30	ns	
(10) 授業が理想のように上手くない。	4.11	1.04	3.68	1.28	0.56**	2.59**	初>被
(11) 学校の方針と自分の教育理念が適応していない。	3.00	1.28	2.57	0.75	0.45**	2.46**	初>被
(12) 生徒の成績が不振でどのように対応すればよいか分からない。	3.30	1.55	3.11	1.32	0.33*	ns	

6. 「初任教師の悩み解決」についてどのように捉えますか。							
(1) 初任教師や年齢の近い先生方に相談している。	4.11	0.93	3.73	1.02	0.03	ns	
(2) ベテランの先生方にアドバイスをしてもらう。	4.57	0.36	4.00	0.97	0.05	3.09**	初>被
(3) 外部の相談機関（カウンセラー含む）に相談している。	2.08	0.97	2.38	1.04	0.35*	ns	
(4) 親しい友人に相談している。	3.30	1.55	3.08	1.28	0.51**	ns	
(5) 生徒に相談している。	1.76	1.08	1.76	1.04	0.69**	ns	
(6) 家族に相談している。	2.65	1.90	2.38	1.34	0.43**	ns	
(7) 自分で問題点を探り解決策を考えている。	3.76	0.80	3.27	0.99	0.30	2.64**	初>被
(8) 時間が過ぎれば解決すると思込み、誰にも相談できず悩んだままである。	1.89	1.21	2.38	1.16	0.64**	-3.08**	初<被
(9) “頑張ろう”という気持ちでいるんなことに挑戦して試行錯誤を繰り返す。	3.92	0.63	3.62	0.92	0.45**	1.99*	初>被
(10) 問題や不安に直面せず、趣味や娯楽で気分を紛らわしている。	2.32	1.45	2.84	1.24	0.58**	-2.79**	初<被

7. 「初任教師」のイメージをどのように捉えますか。							
(1) 自己向上の意欲が高く、人陰で教育者として必要な勉学を熱心に励んでいる。	4.00	0.80	3.47	1.11	0.40*	2.86**	初>被
(2) 歳が生徒に近いので、生徒の心の中では「先生」と認められない。	3.14	1.07	3.39	0.99	0.48**	ns	
(3) まじめであるが右往左往しておどおどしている。	3.03	1.34	3.39	0.96	0.47**	-2.26**	初<被
(4) 緊張感を持っている。	4.05	0.80	3.50	1.00	0.54**	ns	
(5) 初々しくて新鮮で素人っぽい。	3.43	1.39	3.67	0.99	0.58**	ns	
(6) 若くて元気があり何事にも積極的に挑戦している。	4.05	0.80	3.64	0.96	0.36*	2.38*	初>被
(7) 教職に不慣れであるので“先生”としては生徒に頼りにされていない。	3.08	1.57	3.11	1.09	0.71**	ns	
(8) 生徒に兄や姉みたいに見られており親しみをもって話しかけられやすい。	4.03	0.69	4.08	0.81	0.56**	ns	
(9) 歳が近いので生徒の気持ちを理解しやすい。	3.86	0.87	3.94	0.92	0.56**	ns	
(10) 生徒の指導力に自信が無く、適切な注意ができない。	3.05	1.28	3.19	0.98	0.69**	ns	
(11) 一人ひとりの生徒に応じた、適切な進路指導が分からない。	3.43	1.39	3.19	1.04	0.54**	ns	
(12) 若いために年輩の先生や保護者、生徒らから学校行事や部活動等で期待される。	3.76	1.11	3.56	1.05	0.62**	ns	
(13) 授業の教え方が慣れていないので、生徒にとっては分かりにくい授業をしている。	3.32	1.18	3.31	0.98	0.64**	ns	
(14) 教師として働ける喜びを心から感謝し生きがいを持っている。	3.97	1.03	3.03	0.84	0.34*	5.10***	初>被
(15) 学習で分からないところを個人で質問したとき、親切・丁寧に分かるまで説明してくれる。	4.32	0.56	3.72	0.61	0.31	4.34***	初>被

(註1) 検定欄には、 *p<.05 **p<.01 ***p<.001 を示している。

(註2) 表中の関係の欄で表示している、「初」は初任教師観を、「被」は被初任教師観を示している。

7. 初任教師のイメージ

平均値が最も高い項目は(15)のM=4.32で最も低い平均値は(3)のM=3.03であった(Table 4)。男性初任教師・女性初任教師の平均値の検定の結果、3項目で男性<女性〔(8) $t=2.84$, (10) $t=2.50$, (11) $t=2.80$, (いずれも $df=35, p<.01$)]の有意差がみられた。初任教師が回答する「初任教師のイメージ」にはどのような共通要因が潜んでいるのかを調べるため因子分析(主因子法, バリマックス回転)をおこなったところ, 解釈可能性という点から3因子を抽出した(Table 5-1)。各因子は因子負荷量0.4以上の項目でかつ他の因子における因子負荷量と, 0.1以上の差のある項目のみその因子として採用した。第1因子は, (7)「教職に不慣れであるので“先生”としては生徒に頼りにされていない」, (3)「まじめであるが右往左往しておどおどしている」など7項目からなる。これらの項目は, いずれの項目も経験不足から連想できるネガティブなイメージが強いため「初任教師観から捉えた未熟さ」因子と名づけた。第2因子は, (14)「教師として働ける喜びを心から感謝し生きがいを持っている」, (12)「若いために年輩の先生や保護者, 生徒らから学校行事や部活動等で期待される」などの2項目からなる。これらの項目は, 前向きに努力する態度, 周囲からの期待に応えようとする姿勢をあらわしていることから「初任教師観から捉えた前向きな姿勢・態度」と名づけた。第3因子は, (6)「若くて元気があり何事にも積極的に挑戦する」, (8)「生徒に兄や姉みたいにみられており親しみをもって話しかけられやすい」の2項目からなる。これらの項目はエネルギーで生徒の要望に尽くしてくれる若さイメージや生徒にとってちょっと年上の兄姉のような存在で親しさのあるイメージがあらわれていることから「初任教師観から捉えた生徒との親交感」と名づけた。第1因子の寄与率は27.61%, 第2因子は12.42%, 第3因子は9.52%となった。それぞれの α 係数は0.886, 0.596, 0.658, 全体の α 係数は0.835となり, 信頼性が確認されたといえる。

Table 5-1 初任教師自身の「初任教師のイメージ」尺度得点の因子分析(バリマックス回転後)

項目	第1因子	第2因子	第3因子
(7) 教職に不慣れであるので“先生”としては生徒に頼りにされていない。	0.843	0.157	0.113
(3) まじめであるが右往左往しておどおどしている。	0.788	0.019	0.019
(11) 一人ひとりの生徒に応じた, 適切な進路指導が分からない。	0.773	0.023	-0.012
(10) 生徒の指導力に自信が無く, 適切な注意ができない。	0.767	-0.017	0.247
(5) 初々しくて新鮮で素人っぽい。	0.691	0.217	0.287
(2) 歳が生徒に近いので, 生徒の心の中では「先生」と認められない。	0.637	0.125	0.104
(13) 授業の教え方が慣れてないので, 生徒にとっては分かりにくい授業をしている。	0.537	0.099	-0.286
(14) 教師として働ける喜びを心から感謝し生きがいを持っている。	0.002	0.850	0.005
(12) 若いために年輩の先生や保護者, 生徒らから学校行事や部活動等で期待される。	0.292	0.445	-0.241
(1) 自己向上の意欲が高く, 人陰で教育者として必要な勉学を熱心に励んでいる。	0.082	0.414	0.220
(15) 学習で分からないところを個人で質問したとき, 親切・丁寧に分かるまで説明してくれる。	0.014	0.413	0.324
(6) 若くて元気があり何事にも積極的に挑戦している。	-0.159	0.210	0.928
(8) 生徒に兄や姉みたいに見られており親しみをもって話しかけられやすい。	0.407	0.046	0.622
(4) 緊張感を持っている。	0.312	0.144	0.280
(9) 歳が近いので生徒の気持ちを理解しやすい。	0.271	-0.026	0.277
寄与率	27.61%	12.42%	9.52%
累積寄与率		40.03%	49.55%
α 係数	0.886	0.596	0.658
全体の α 係数=0.835			

因子抽出法: 主因子法 回転法: Kaiser の正規化を伴わないバリマックス法

(3) 初任教師による「被初任教師観」の傾向分析

調査結果は、(2) 初任教師自身の「初任教師観」の分析と同様、項目を小題(計7題)に区分して、得点(平均値・SD)、性差、因子分析(小題7のイメージのみ)についてまとめた。

1. 初任教師の成長をどのように捉えているのか

平均値は、最低値の(2)の $M=3.81$ を除き、他の項目は4点台前半のほぼ均一な値となっていた(Table 4)。男性初任教師・女性初任教師の平均値の検定の結果、1項目で男性<女性〔(6) $t=2.03$, $df=35$, $p<.05$ 〕の有意差がみられた。

2. 初任教師の成長するところ

平均値が4点台を超えているのは(3)の $M=4.35$ のみで、他の項目は3点台となっている(Table 4)。平均の最低値は(6)の $M=3.35$ で(3)の平均の最高値より1.00点の差が開いた結果となっていた。男性初任教師・女性初任教師の平均値の検定の結果、3項目で男性<女性〔(5) $t=2.03$, (6) $t=2.05$, (5) $t=1.76$, (いずれも $df=35$, $p<.05$)〕の有意差がみられた。

3. 望まれる初任教師の成長像

平均値はいずれも4点台を超えており、最高平均値は(5)の $M=4.73$ で、最低平均値は(6)の $M=4.16$ であった(Table 4)。標準偏差は(6)以外の項目については1.00を下回っており、分散は大きくない傾向がみられた。男性初任教師・女性初任教師の平均値の検定の結果、1項目で男性<女性〔(1) $t=2.00$, $df=35$, $p<.05$ 〕の有意差がみられた。

4. 初任教師の成長に必要なこと

平均値の最高得点は(10)の $M=4.57$ であり、最低得点の(11)の $M=2.73$ と大きく差が開いた結果となった(Table 4)。平均値が4点台は5項目、3点台が5項目、2点台が1項目となっており、項目によって得点の高低がみられる結果となっている。男性初任教師・女性初任教師の平均値の検定の結果、3項目で男性<女性〔(3) $t=1.73$, (5) $t=1.86$, $t=2.16$, (いずれも $df=35$, $p<.05$)〕の有意差がみられた。

5. 初任教師の悩みや困惑の内容

いずれの項目も平均値は4点台を下回っており、最高値は(4)の $M=3.94$ 、最低値は(11)の $M=2.64$ であった(Table 4)。男性初任教師・女性初任教師の平均値の検定の結果、4項目で男性<女性〔(2) $t=2.92$, (5) $t=2.58$, (6) $t=3.32$, (8) $t=2.47$, (いずれも $df=35$, $p<.01$)〕の有意差がみられた。

6. 初任教師の悩みや困惑の解決スキル

平均の最高値は(2)の $M=4.00$ で、この項目の得点のみ4点を超えた結果となっている(Table 4)。その他の項目については、平均の最低値の(6)の $M=1.76$ から(1)の $M=3.73$ の範囲の値であった。男性初任教師・女性初任教師の平均値の検定の結果、1項目で男性>女性〔(7) $t=2.03$, $df=35$, $p<.05$ 〕の有意差がみられた。

7. 初任教師のイメージ

平均値が4点台を超えたのは、平均の最高値である(8)の $M=4.08$ のみであり、他の項目は全て3点台の平均値であった。平均の最低値は、(14)の $M=3.03$ で平均の最高値と約1点の差が開いた結果となった。男性初任教師・女性初任教師の平均値の検定の結果、5項目で男性<女性〔(3) $t=2.79$, $p<.01$, (5) $t=3.95$, $p<.001$, (6) $t=1.90$, $p<.05$, (8) $t=1.97$, $p<.05$, (14) $t=1.90$, $p<.05$ (いずれも $df=35$)〕の有意差がみられた。被初任教師観による「初任教師のイメージ」にどのような共通要因が潜んでいるのかを調べるために因子分析(主因子法, バリマックス回転)をおこなったところ、解釈可能性という点から3因子を抽出した(Table 5-2)。各因子は因子負荷量0.4以上の項目でかつ他の因子における因子負荷量と、0.1以上の差のある項目のみその因子として採用した。第1因子は、(11)「一人ひとりの生徒に応じた、適切な進路指導がわからない」、(3)「まじめであるが右往左往しておどおどしている」、(7)「教職に不慣れであるので“先生”としては生徒に頼りにされていない」など6項目からなる。これらの項目は、自己意識の第1因子と同様、経験不足から連想できるネガティブなイメージが強いため「被初任教師観から捉えた未熟さ」因子と名づけた。第2因子は、(2)「歳が生徒に近いので、生徒の心の中では「先生」と認められない」、(13)「授業の教え方が慣れてないので、生徒にとっては分かりにくい授業をしている」、(12)「若いために年輩の先生や保護者、生徒らから学校行事や部活動等で期待される」などの5項目からなる。これらの項目は、授業の教え方などまだ慣れていないため生徒から「先生」と認められてはいないネガティブなイメージをもつ一方、教師として働ける意欲を持ち向学心の意欲が高いために回りから期待されるといったポジティブなイメージも持てることから「自己像の不安定さ」と名づけた。第3因子は、(8)「生徒に兄や姉みたいにみられており親しみをもって話しかけられやすい」、(9)「歳が近いので生徒の気持ちを理解しやすい」など3項目からなる。これらの項目は話がしやすい親しみを感じやすいイメージがあらわれていることから「被初任教師観から捉えた親交感」と名づけた。第1因子の寄与率は23.52%、第2因子は16.96%、第3因子は9.52%となった。それぞれの α 係数は.882, .754, .808、全体の α 係数は.884となり、信頼性が確認されたといえる。

Table 5-2 初任教師の予想する高校生の「初任教師のイメージ」尺度得点の因子分析（バリマックス回転後）

項目	第1因子	第2因子	第3因子
(1) 一人ひとりの生徒に応じた、適切な進路指導が分からない。	0.852	0.287	0.048
(3) まじめであるが右往左往しておどおどしている。	0.755	-0.043	0.247
(7) 教職に不慣れであるので“先生”としては生徒に頼りにされていない。	0.683	0.580	-0.047
(10) 生徒の指導力に自信が無く、適切な注意ができない。	0.658	0.216	0.129
(4) 緊張感を持っている。	0.616	0.122	0.251
(5) 初々しくて新鮮で素人っぽい。	0.564	0.353	0.367
(2) 歳が生徒に近いので、生徒の心の中では「先生」と認められない。	0.063	0.731	0.147
(13) 授業の教え方が慣れてないので、生徒にとっては分かりにくい授業をしている。	0.324	0.729	0.171
(12) 若いために年輩の先生や保護者、生徒らから学校行事や部活動等で期待される。	0.239	0.600	0.115
(14) 教師として働ける喜びを心から感謝し生きがいを持っている。	-0.048	0.453	0.335
(1) 自己向上の意欲が高く、人陰で教育者として必要な勉学を熱心に励んでいる。	0.315	0.421	0.064
(8) 生徒に兄や姉みたいに見られており親しみをもって話しかけられやすい。	0.296	0.041	0.838
(9) 歳が近いので生徒の気持ちを理解しやすい。	0.116	0.176	0.739
(6) 若くて元気があり何事にも積極的に挑戦している。	0.235	0.306	0.613
(15) 学習で分からないところを個人で質問したとき、親切・丁寧に分かるまで説明してくれる。	0.247	0.061	0.056
寄与率	23.52%	16.96%	13.91%
累積寄与率		39.48%	53.39%
α係数	0.882	0.754	0.808
全体のα係数=0.8839			

因子抽出法: 主因子法 回転法: Kaiser の正規化を伴わないバリマックス法

(4) 初任教師の「初任教師観」と「被初任教師観」の比較分析

調査結果は、項目を小題（計7題）に区分して、平均値の比較、同項間の相関分析、因子の比較（小題7のイメージのみ）について回答の傾向をまとめた。

1. 初任教師の成長をどのように捉えているのか

「初任教師観」と「被初任教師観」の2つの回答について、平均値を比較すると全ての項目において初任教師観が高い結果となっており、項目ごとの平均点について対応のあるt検定を行った結果、6項目中全ての項目において初任教師観>被初任教師観で有意差が見られた（Table 4）〔（1）t=5.03,（2）t=5.10,（3）t=3.92,（4）t=4.44,（5）t=5.02,（6）t=4.35,（いずれもdf=35, p<.001）〕。男性初任教師及び女性初任教師のそれぞれの「初任教師観」と「被初任教師観」の平均点の差のt検定の結果においても全ての項目において初任教師観>被初任教師観で有意差が見られた。

2. 初任教師の成長するところ

初任教師観と被初任教師観の平均値を比較すると、全ての項目において初任教師観の評価得点が高い結果となった（Table 4）。対応のあるt検定の結果、全ての項目において初任教師観>被初任教師観で有意差が見られた〔（1）t=4.76,p<.001,（2）t=3.40,p<.001,（3）t=1.72, p<.05（4）t=4.42,p<.001,（5）t=3.78,p<.01（6）t=5.47,p<.001,（7）t=4.14,p<.001（いずれもdf=35）〕。男性初任教師及び女性初任教師のそれぞれの「初任教師観」と「被初任教師観」の平均点の差のt検定の結果、男性女性共通して初任教師観>被初任教師観の項目は、（4）～（7）の4項目で有意差が見られ、男性のみ初任教師観>被初任教師観で有意差が見られた項目は（1）、女性のみ初任教師観>被初任教師観で有意差が見られた項目は（2）であった。

3. 望まれる初任教師の成長像

初任教師観と被初任教師観の平均値を比較すると、差がほとんど開いていない結果となっている項目が多い。対応のある t 検定の結果、(4)・(5)の項目で初任教師観<被初任教師観、(6)の項目で初任教師観>被初任教師観、のそれぞれで有意差がみられた [(4) $t=2.64$, $p<.01$, (5) $t=3.15$, $p<.01$, (6) $t=3.47$, $p<.001$ (いずれも $df=35$)] (Table 4)。男性初任教師及び女性初任教師のそれぞれの「初任教師観」と「被初任教師観」の平均点の t 検定の結果、男性は有意差のみられる項目はなかったが、女性については初任教師観>被初任教師観で有意差が見られた項目が(6)、初任教師観<被初任教師観で有意差が見られた項目が(1)・(4)の2項目あった。

4. 初任教師の成長に必要なこと

平均値を比較すると、(4)以外の全ての項目において初任教師観が被初任教師観の得点を上回った結果となっている (Table 4)。対応のある t 検定の結果、(4)と(10)の2項目以外で初任教師観>被初任教師観の有意差がみられた [(1) $t=6.61$, $p<.001$, (2) $t=4.29$, $p<.001$, (3) $t=3.33$, $p<.01$, (5) $t=3.48$, $p<.001$, (6) $t=2.64$, $p<.01$, (7) $t=4.98$, $p<.001$, (8) $t=5.03$, $p<.001$, (9) $t=5.53$, $p<.001$, (11) $t=3.72$, $p<.001$ (いずれも $df=35$)]。男性初任教師及び女性初任教師のそれぞれの「初任教師観」と「被初任教師観」の平均点の差の t 検定の結果、男性女性共通して初任教師観>被初任教師観の項目は、(1)・(3)・(7)・(8)・(9)の5項目で有意差が見られ、男性のみ初任教師観>被初任教師観で有意差が見られた項目は(2)・(5)、女性のみ初任教師観>被初任教師観で有意差が見られた項目は(6)・(11)であった。

5. 初任教師の悩みや困惑の内容

平均値を比較すると、初任教師観の得点が被初任教師観より高い結果となっている項目が(1)・(2)・(3)・(4)・(9)・(10)・(11)・(12)の8項目、被初任教師観の得点が初任教師観より高い結果となっている項目が(5)・(6)・(7)・(8)の4項目となった (Table 4)。対応のある t 検定の結果、(6)・(7)・(11)・(12)の項目において初任教師観と被初任教師観の間に有意差がみられた [(6) $t=1.74$, $p<.05$, (7) $t=2.62$, $p<.01$, (10) $t=2.59$, $p<.01$, (11) $t=2.46$, $p<.01$ (いずれも $df=35$)]。男性初任教師及び女性初任教師のそれぞれの「初任教師観」と「被初任教師観」の平均点の t 検定の結果、男性は有意差のみられる項目はなかったが、女性については(10)の項目で初任教師観>被初任教師観で有意差が見られた。

6. 初任教師の悩みや困惑の解決スキル

平均値を比較すると、初任教師観の得点が被初任教師観より高い結果となっている項目が(1)・(2)・(4)・(6)・(7)・(9)の6項目、被初任教師観の得点が初任教師観より高い結果となっている項目が(3)・(8)・(10)の3項目、差がなかった項目が(5)であった (Table 4)。対応のある t 検定の結果、(2)・(7)・(9)の3項目で初任教師観>被初任教師観、(8)・(10)の項目で初任教師観<被初任教師観で有意差がみられた [(2) $t=3.09$, $p<.01$, (7) $t=2.64$, $p<.01$, (8) $t=3.08$, $p<.01$, (9) $t=1.99$, $p<.05$, (10) $t=2.79$, $p<.01$ (いずれも $df=35$)]。男性初任

教師及び女性初任教師のそれぞれの「初任教師観」と「被初任教師観」の平均点の t 検定の結果、男性は (7) の項目において初任教師観 > 被初任教師観の有意差が見られた。女性については、(1)・(2) の項目において初任教師観 > 被初任教師観、(8)・(10) の項目において初任教師観 < 被初任教師観の有意差が見られた。

7. 初任教師のイメージ

平均値を比較すると、初任教師観の得点が被初任教師観より高い結果となっている項目が (1)・(4)・(6)・(11)・(12)・(13)・(14)・(15) の 8 項目、被初任教師観の得点が初任教師観より高い結果となっている項目が (2)・(3)・(5)・(7)・(8)・(9)・(10) の 7 項目であった (Table 4)。対応のある t 検定の結果、(1)・(3)・(6)・(14)・(15) の 5 項目で初任教師観と被初任教師観の間で有意差がみられた [(1) $t=2.86$, $p<.01$, (3) $t=2.26$, $p<.01$, (6) $t=2.38$, $p<.05$, (14) $t=5.10$, $p<.001$, (15) $t=4.34$, $p<.001$ (いずれも $df=35$)]。男性初任教師及び女性初任教師のそれぞれの「初任教師観」と「被初任教師観」の平均点の差の t 検定の結果、男性女性共通して (14)・(15) の 2 項目で初任教師観 > 被初任教師観の有意差が見られ、男性のみ初任教師観 > 被初任教師観の有意差が見られた項目は (1)、女性のみ初任教師観 > 被初任教師観の有意差が見られた項目は (4)・(11) であった。また、初任教師観 < 被初任教師観の有意差は男性ではみられなかったが、女性では (3) の項目でみられた。

6. 考察

以下に小題 1～7 を各題ごとに考察をまとめた。

1. 初任教師の成長をどのように捉えているのか

平均値については、いずれの項目も初任教師観が被初任教師観より高いと結果となっており、標準偏差についても全ての項目において初任教師観の方が被初任教師観より低い値となっている。t 検定の結果からも、初任教師は初任教師の成長に関して、自らを「教師は成長するもの」と肯定的に評価していることがわかる。一方、高校生が抱くと予想する被初任教師の成長観は、初任教師観の得点に比べればやや下がるが、(2)「教師という仕事になれることによりいろいろと学ぶことも見えてくるので成長する」の項目を除く 5 項目が 4 点台の平均値となっていることから、初任教師は高校生も「初任教師は成長するものと評価するであろう」と予想していることが考察される。初任教師観と被初任教師観との相関分析の結果、(1)の「人間は誰でも日々成長していくものであるから初任教師も成長する」と(2)「教師という仕事に慣れることによりいろいろと学ぶことも見えてくるので成長する」の 2 つの項目については有意な相関係数がみられない結果となった。このことは、平均値及び標準偏差値から、(1)・(2)の初任教師観は肯定的に捉えている回答に集中しているが、被初任教師観は肯定的に捉えながらも分散した回答になっていることが原因であると考えられる。

男性の初任教師〔以下男性と略す〕と女性の初任教師〔以下女性と略す〕の回答結果を比較した

場合、平均値が有意差のみられる得点差になっており男性>女性の関係にある項目は、初任教師観の(1)「人間は誰でも日々成長していくものであるから初任教師も成長する」の1項目に対し、男性<女性の関係にある項目は初任教師観の(2)・(5)「生徒ともに触れ合った学校生活をする事によって成長する」、被初任教師観の(6)「生徒や他の教師から情報を吸収し学ぶことにより成長する」の3項目という結果となっている。被初任教師観の平均差をみると、有意差は見られないものの(1)～(5)については男性<女性の関係になっている。このことから男性より女性は肯定的に回答する傾向があるのではないかと予想される。

2. 初任教師の成長するところ

平均値及び標準偏差をみると「1. 初任教師の成長をどのように捉えているのか」の結果と同様、初任教師観が被初任教師観に対し得点が高く、分散が小さい結果となっている。初任教師観と被初任教師観の平均値の差が最も開いていた項目は、(6)の「教育のあり方や考え方」で0.95点差であった。この項目については、初任教師観と被初任教師観との相関分析の結果、有意な相関が見られていない。これらのことから、初任教師自身は「教育の有り方や考え方は初任教師が成長するところ」と肯定的な回答でまとまりのある回答傾向になっているが、被初任教師観については、個人によって意識が散在した回答傾向になっていることが考察される。全ての項目について初任教師観>被初任教師観の有意差が見られており、このことから、初任教師は「初任教師が成長するところ」を「初任教師はどれも成長するであろう」という肯定的な観点から自己分析して意識した回答をおこなっていることが分かる。最も得点の高い項目は、初任教師観においては(3)の「授業の教え方や進め方」と(4)の「生徒に対しての説諭の仕方や指導力」で、被初任教師観においても(3)の項目が最も高い平均値であった。このような回答から、初任教師の授業スキルの発達を目指す姿勢が読み取れる。男性と女性とを区分して結果を見ると、男性のみt検定で初任教師観>被初任教師観の有意差が見られたのが(1)の「生徒各個人の状態を観察できるようになり、まとめることができるようになる」で、初任教師観の平均の最高値の項目は(4)の「生徒に対しての説諭の仕方や指導力」となっている。一方、女性の場合、女性のみt検定で初任教師観>被初任教師観の有意差が見られたのが(2)の「生徒とのコミュニケーションのとり方や接し方」で、初任教師観の平均の最高値の項目は(3)の「授業の教え方や進め方」となっている。このことから、男性と女性とでは、初任教師が成長するところを捉えている視点に異なるところがあるということが分かる。

男性と女性の回答結果を比較すると、平均値が有意差のみられる得点差になっている項目は、初任教師観ではみられなかったが、被初任教師観では、(5)・(6)・(7)「教師としての態度の形成」の3項目において男性<女性の有意差が見られた。このことから、被初任教師観においては女性が男性より、教師としての自分自身の成長に対しての期待に敏感になっていることが明らかとなった。

3. 望まれる初任教師の成長像

初任教師観及び被初任教師観のほとんどの項目において、平均値が4点台を超える高得点となっ

ている。伊藤（1995）によれば、教師の生徒観に対する理想は「友達のように親近感のある先生」「優しくて寛容な先生」「悩みを一緒に考えてくれる先生」「分かりやすい授業を目指す先生」「学級運営が上手い先生」「公平にしかることができる先生」の6タイプに分けられるが、自分が理想とする項目については高く自己評価する傾向がみられたという。このことから、初任教師は、各項目の理想教師像と自分の抱く理想教師像がほぼバランスが取れた状態で一致し肯定的に捉えた回答していることが推察される。初任教師観と被初任教師観を比較すると、ほぼ同程度の平均値となっている項目が多いが、t検定の結果、(4)の「生徒たちから好かれる先生」と(5)「生徒に対して思いやりや愛情の気持ちをもって接してくれる先生」の項目については初任教師観<被初任教師観の有意差が見られており、(6)の「厳しく指導もでき、しっかりと褒めることができる先生」の項目については初任教師観>被初任教師観の有意差がみられる結果となっている。(4)の項目については、初任教師観と被初任教師観との相関分析の結果、有意な相関が見られていない。平均値及び標準偏差値から、初任教師は、高校生は「元気で明るく楽しい先生」を望まれる初任教師の成長像と捉えているかもしれないが、初任教師自身としては、「元気で明るく楽しい先生」に成長することについては、意識に個人差のある傾向が考察される。初任教師観での平均の最高値は(3)の「生徒のことを真剣に考え、悩みや不安の相談に親身に対応してくれる先生」の項目であり、被初任教師観では「生徒に対して思いやりや愛情の気持ちをもって接してくれる先生」であった。この2項目では平均値の差はほとんどなく、初任教師が生徒の気持ちの理解し親身に対応できる教師を重視している傾向があることが予想される。男性と女性を区別して結果を見ると、男性では初任教師観と被初任教師観に有意差のみられる項目はなかったが、女性では、(6)の項目で初任教師観>被初任教師観の関係で有意差が見られ、(1)の「生徒一人ひとりの個性を大事にし、生徒理解ができる先生」と(4)の「生徒たちから好かれる元気で明るく楽しい先生」の2項目で初任教師観<被初任教師観の有意差がみられた。このことから、(6)の項目については、女性は「厳しい指導ができる上、しっかりと褒めることができると自信をもってはいるが、高校生は初任の女性をそのように見ないであろう」と捉えていることがわかる。また、(1)・(4)の項目から、女性は「高校生は、女性の初任教師に対してやさしさや生徒理解を期待しているかもしれない」といった予想からくる期待感や不安感を抱いていることが考えられる。なお、この結果については、女性は男性より、自分の未熟さに対する意識が強い、あるいは、理想が高く現状に満足しない傾向が強いことも反映しているのかもしれないとも考えられる。男性と女性の回答結果を比較した場合、平均値が有意差のみられる得点差になっている項目は、初任教師観ではみられなかったが、被初任教師観では、(1)の項目において男性<女性の有意差が見られた。被初任教師観の(1)以外の項目〔初任教師観含む〕の平均値を男性と女性と比較した場合、有意差は見られないものの全ての項目において女性が低い平均値となっている。このような結果から、女性の初任教師が捉える「望まれる初任教師像の成長像」の認識については、ジェンダー等の影響による「女性教諭としての性役割期待感」が結果として反映していることが伺える。

4. 初任教師の成長に必要なこと

平均値を比較すると、(4)の「生徒に対して思いやり(愛情)の気持ちをもって理解する」の項目以外は全て初任教師観が高い結果となっており、分散も初任教師観の方が小さい傾向にある。(1)～(10)の初任教師観の平均値は4.46以上の値で高得点となっているが、(11)の「生徒が教師に協力することが大切である」の項目については平均値が3.30と低い結果となっている。被初任教師観についても(11)の平均値は2.73と他の項目に比べれば低い結果となっている。このことから、初任教師は、初任教師の成長には生徒が教師に協力することが少しは必要であると肯定的には捉えているが、生徒はそのようには考えないであろうと予想した回答をしていることが読み取れる。初任教師観と被初任教師観のt検定の結果、(4)と(10)「生徒への言動が不適切であったら反省しなおすことができる心」の2項目以外の9項目で初任教師観>被初任教師観の有意差が見られている。このような結果から、初任教師は自我関与の視点から「高校生は自分自身に直接関係することは関心を持ちやすいかもしれないが、他人である初任教師の成長については関心を持たないだろう」と捉えていると思われる。初任教師観と被初任教師観の相関分析の結果、(1)「いろいろな人々と触れ合い、多様な価値観を理解することが大切である」・(6)「生徒や他の先生方の意見を素直に聞く耳をもつ」・(10)「生徒への言動が不適切であったら反省しなおすことができる心」の3項目については有意な相関係数がみられていない。平均値及び偏差値から、初任教師自身は、初任教師の成長にとって「多様な価値観の理解」「素直に意見を聴く姿勢」「反省する心」は必要(大切)であると肯定的に捉えた回答に集中しているが、被初任教師観に関しては、回答が分散していることから、上述の自我関与の違いが読み取られる。

男性と女性を区別して結果を見ると、男性女性共通して初任教師観>被初任教師観の有意差がみられる項目が(1)・(3)・(7)・(8)・(9)の5項目で、男性のみ初任教師観>被初任教師観の有意差がみられる項目が(2)・(5)の2項目、女性のみ初任教師観>被初任教師観の有意差がみられる項目が(6)・(11)の2項目であった。このことから、男性は女性より「生徒とのコミュニケーション」や「生徒観察・生徒理解」を、女性は男性より「生徒の意見を聴く姿勢」や「生徒の協力」を重視する傾向に違いがあることが分かる。

男性と女性の初任教師観と被初任教師観の回答結果をそれぞれ比較した場合、平均値に有意差のみられる項目は、初任教師観では(1)「いろいろな人々と触れ合い、多様な価値観を理解することが大切である」・(6)「生徒や他の先生方の意見を素直に聞く耳をもつ」の2項目で男性<女性の有意差がみられ、被初任教師観については(3)「他の先生方に授業や生徒指導の仕方をアドバイスしてもらう」・(5)「多くの生徒を観察する目を養い生徒の考えや気持ちを理解する」・(9)「いろいろなことに挑戦し経験や失敗を積み重ねていく」の3項目において男性<女性の有意差が見られた。このような結果が見られることは、女性は、未熟なところや不十分なところを自ら変えていこうとする前向きな姿勢をもちたい気持ちが男性より強い傾向であることや、女性教諭として見られるジェンダーの視点からの評価を超越したい気持ちが強く表れているのかもしれないと考察される。

5. 初任教師の悩みや困惑の内容

被初任教師観が初任教師観の平均値を上回っている項目は、(5)の「生徒の接し方が分からない」、(6)の「生徒の授業中の私語や問題行動等の対処方法が分からない」、(7)の「生徒の行動や思考を理解できない」、(8)の「生徒とのコミュニケーションのとり方がわからない」の4項目で(7)については初任教師観<被初任教師観の有意差も見られている。このことから、初任教師は「生徒は初任教師が意識する以上に、生徒に関する悩みや困惑を初任教師が抱えているのではないかと」予想していると思われる。初任教師観及び被初任教師観で最も平均値が高かったのは、どちらとも(10)の「授業が理想のように上手くいかない」であった。このことは、吉崎(2002)が「教師は、子どもの学習状態を把握すると共に子どもの学習状態を先読みすることが求められている。しかし、初任教師にとってこの読みはとても難しい」と指摘していることが得点に表れているのではないかと考察される。調査結果から、初任教師は授業スキルで最も悩んでおり、生徒の視点に立って自分の授業を観察・評価している姿勢が考えられる。初任教師観と被初任教師観の同じ項目の相関分析の結果、(3)の「他の先生(校長や教頭を含む)との付き合い方が分からない」と(9)「他の先生とのコミュニケーションのとり方がわからない」の2つの項目については有意な相関係数がみられていないことが分かった。このことから、管理職や同僚の先生方との人間関係において困惑しているという意識については、初任教師の意識の中にズレがあると伺える。男性と女性を区別して結果を見ると、男性では初任教師観と被初任教師観に有意差がみられる項目はなかったが、女性については(11)の「学校の方針と自分の教育方針が適応していない」の項目が初任教師観>被初任教師観の有意差がみられる結果となっている。

男性と女性の初任教師観と被初任教師観の回答結果をそれぞれ比較した場合、平均値については全ての項目において女性の平均値が男性を上回っている。このことは、田村・石隈(2001)が指摘しているように、女性は男性に比べ自己の指導・援助に自信が持てず援助を求めているのかもしれないと考えられる。男性<女性の有意差が見られた項目が、初任教師観で6項目、被初任教師観で5項目であり、生徒・保護者とのコミュニケーションや学習指導・生徒指導の展開に関する項目であった。このことから、女性は男性より悩みや困惑に対しての感受性が強く不安定感を抱きやすい傾向のあることが明らかとなった。

6. 初任教師の悩みや困惑の解決スキル

初任教師観の結果から、初任教師は悩みの解決として最も利用している方法が(2)の「ベテランの先生方にアドバイスをしてもらおう」であることが平均値及び標準偏差の値から読み取れる。また、被初任教師観の結果からも、生徒も同じような見解をもっているであろうと初任教師は予想していることが分かる。(5)の「生徒に相談している」の平均値が初任教師観及び被初任教師観ともに同じ値で最低の平均値となっている。このことから、初任教師は、悩みの解決を生徒に相談する考えはほとんどないとともに、生徒も初任教師は悩みを生徒に相談するようなことはないだろうと初任教師は予想していることが分かる。初任教師観と被初任教師観のt検定の結果、初任教師観

>被初任教师観の有意差がみられたのが(2)と(7)「自分で問題点を探り解決策を考えている」と(9)「“頑張ろう”という気持ちでいろんなことに挑戦して試行錯誤を繰り返す」の3項目で、初任教师観<被初任教师観の有意差がみられたのが(8)「時間が過ぎれば解決すると思ひ込み、誰にも相談できず悩んだままである」と(10)「問題や不安に直面せず、趣味や娯楽で気分を紛らわしている」の2項目であった。このことから、初任教师は、(2)や(7)・(8)の項目を悩みの解決策として実際に実践し悩みを解消しようと努力しているが、生徒は「悩みの解決法を知らない」「悩みを回避している」と見ているのではないかと予想している。初任教师観と被初任教师観の同じ項目の相関分析の結果、(1)「初任教师や年齢の近い先生方に相談している」と(2)と(7)の3項目においては有意な相関係数がみられなかった。この結果から、平均値及び標準偏差値から、初任教师自身が「悩みに対し積極的に取り組んだり支援の要請を求めたりして解決する自信を持っているが、高校生は問題に対し消極的に対処すると予想するであろう」と捉えらるるといった初任教师観と被初任教师観の意識のズレが個人内にあることが伺える。男性と女性を区別して結果を見ると、男性では(7)の項目で初任教师観>被初任教师観の有意差がみられた。女性については、(1)の「新任教師や年齢の近い先生方に相談している」と(2)の項目で初任教师観>被初任教师観の有意差がみられ、(8)と(10)の項目で初任教师観<被初任教师観の有意差がみられた。このことから女性の方が男性より初任教师観と被初任教师観に差をつけて回答しようとしている意識が潜在していることが読み取れる。

7. 初任教师のイメージをどのように捉えているのか

t検定の結果、初任教师観>被初任教师観の有意差がみられる「初任教师のイメージ」の項目は、(1)の「自己向上の意欲が高く、人陰で教育者として必要な勉学を熱心に励んでいる」、(6)の「若くて元気があり何事にも積極的に挑戦している」、(14)の「教師として働ける喜びを心から感謝し生きがいをもっている」、(15)の「学習で分からないところを個人で質問したとき、親切・丁寧に分かるまで説明してくれる」の4項目であった。つまり、これらの項目の「初任教师のイメージ」については、生徒はそのようなイメージを捉えていないかもしれないが自分自身のイメージとしては生徒よりは肯定的に評価している項目であると考察される。一方、初任教师観<被初任教师観の有意差がみられる(3)「まじめであるが右往左往しておどおどしている」については、初任教师自身はそのようには思っていないが、生徒はそのようなイメージを持っているであろうと初任教师が捉えている初任教师観ということになる。初任教师観及び被初任教师観ともに平均値が4点台と高かったのが、(8)の「生徒に兄や姉みたいに見られており親しみをもって話しかけられやすい」の項目であった。このことは、「教える経験の少ないものの持つイメージは過去のこれまでの経験から作られた固定し静止した像である」と秋田(2002)が指摘しているように、初任教师自身が児童生徒の頃に見てきた固定された初任教师のイメージの視点で、初任教师観及び被初任教师観を回答しているようにも捉えられる。初任教师観と被初任教师観の同じ項目の相関分析の結果、(15)のみ有意な相関係数がみられなかった。平均値及び標準偏差値の結果から、初任教师自身は

初任教師のイメージとして「学習で分からないところを個人で質問したとき親切・丁寧に分かるまで説明してくれる先生」を肯定的に認識しているが、被初任教師観との関係からは個人内における意識のズレが伺える。男性と女性を区別して結果を見ると、男性女性共通して(14)・(15)で初任教師観>被初任教師観の有意差がみられた。(1)の項目については男性のみ初任教師観>被初任教師観の有意差がみられ、女性のみ初任教師観>被初任教師観の有意差がみられた項目は(4)と(11)「一人ひとりの生徒に応じた、適切な進路指導が分からない」であった。初任教師観<被初任教師観の有意差がみられた項目は、男性ではみられていないが、女性については(3)「まじめであるが右往左往しておどおどしている」の項目で有意差がみられる結果となっている。このように、男性と女性とでは、初任教師のイメージ感については共通して捉えているところもあるが、ネガティブなイメージについては、女性は男性より強く意識する傾向があるなど異なる見解をもつ視点もあることが分かる。

男性と女性とのt検定の結果、初任教師観に関しては(8)と(10)「生徒の指導力に自信がなく、適切な注意ができない」と(11)「一人ひとりの生徒に応じた、適切な進路指導が分からない」の3項目で男性<女性の有意差がみられている。このことから、女性は男性より初任教師のイメージを「話しかけやすいが適切な指導や注意ができない」と捉えている傾向があることが分かる。被初任教師観に関しては(3)・(5)「初々しくて新鮮で素人っぽい」・(6)・(8)・(14)の5項目において男性<女性の有意差がみられた。他の項目については、有意差はみられていない結果となっているが、(2)「歳が生徒に近いので、生徒の心の中では先生と認められない」の項目を除けば、全て女性の平均値が男性より高い結果となっている。このことから、女性は男性よりも、初任教師のイメージとして、新人らしさ、仕事への生きがい、成長不安を強く感じていることが明らかにされている。

因子分析の結果、初任教師観及び被初任教師観のどちらも3因子が抽出されてはいるが、因子を解釈する項目数及び因子負荷量が初任教師観と被初任教師観とでは異なっている。このことから、初任教師は、「初任教師のイメージ」に関する項目については初任教師観と被初任教師観を回答する際の深層心理が異なっていることが考察される。初任教師観の第1因子「初任教師観で捉えた未熟さ」の中に含まれる(2)「歳が生徒に近いので、生徒の心の中では先生と認められない」と(13)「授業の教え方が慣れていないので、生徒にとっては分かりにくい授業をしている」の2つの項目が、被初任教師観では第2因子「自己像の不安定さ」へ移行している。このことから、初任教師はこの2つの項目については、初任教師観の第1因子ではネガティブなイメージとして捉えているが、被初任教師観の第2因子では、生徒が捉える初任教師のイメージとしては“教師として頑張っていると評価されるが授業が下手だと思われるであろう”というプラスとマイナスをもつアンビバレントな価値観をもって回答していることが考えられる。初任教師観の第2因子「初任教師観で捉える前向きな姿勢・態度」の(15)「学習で分からないところを個人で質問したとき、親切・丁寧に分かるまで説明してくれる」の項目は、被初任教師観では因子負荷量が低いためどの因子に

も含まれていない。このことは、初任教师自身、生徒が質問に来たとき親切・丁寧に説明してやろうとする意志をもってはいるが、高校生はそのような指導はしてくれないであろうと予想していることが読み取れる。初任教师観の回答では、(4)「緊張感をもっている」と(9)「歳が近いので生徒の気持ちを理解しやすい」の2つの項目は3因子に対しいずれも因子負荷量が小さいが、被初任教师観の回答では(4)は第1因子「被初任教师観から捉えた未熟さ」に、(9)は第3因子「被初任教师観が捉えた親交感」に含まれている。このことについて考察すると、(4)の「緊張感」の回答については、初任教师は、自己意識では緊張感を「集中力を高める」「士気を高揚させる」といったプラスの視点で捉えているが、被初任教师観では、第1因子の「被初任教师観から捉えた未熟さ」の中に含まれていることから、初任教师は、高校生から緊張感を「ぎこちない行動の中に見られる緊張感として捉えるであろう」という視点で受け取っていると考察される。(9)の「生徒理解」の回答については、初任教师自身、歳が近くても生徒(他者)の気持ちを理解することは難しいという意向をもってはいるが、初任教师は「高校生は他者理解を気軽に捉えて初任教师は歳が近いから気持ちを理解してくれやすいだろう」と予想して回答していることが考えられる。このような因子構造の違いから、初任教师観と被初任教师観とでは視点を区別した意識をもって回答していることが明らかにされた。

7. まとめと課題

本研究は、平成17年度に採用された初任の高校教師37名を対象にして、「初任教师の成長」「初任教师の悩みや困惑」「初任教师のイメージ」に関する初任教师観について検討したものである。

主な結果として以下のことが明らかにされた。

1. 「初任教师の成長」に関して

初任教师の成長に関して、初任教师は「初任教师はあらゆる面で成長するものであり、成長するためには、教授方法や生徒指導など多面のバランスの取れた理想の教師像に抱くことが大事であり、成長にとって必要なことは積極的に吸収し努力する姿勢が望ましい」と捉えていることが明らかとなった。また、被初任教师観の回答傾向から、初任教师は「高校生も初任教师が捉えているように“初任教师は成長する”と思っはいるであろうが、初任教师自身の意識ほどではないであろう」と捉えていることが分かった。

初任教师は「高校生にとって望まれる初任教师の成長像とは“生徒に対し思いやりや愛情をもって接することができ、元気で明るく楽しく、生徒を理解してくれる”先生であろう」と予想していることが明らかにされた。

2. 「初任教师の悩みや困惑」に関して

初任教师の悩みや困惑に関しては、初任教师は「授業が上手くできないことや学校の方針と初任教师の教育理念が合わないことについて悩んでいるが、高校生はその心境はあまり察しないであろう」と捉えていることが分かった。また、被初任教师観の回答傾向から、初任教师は「高校生は、

“初任教師の悩みは生徒の行動や思考が理解できないため接し方や対処方法も分からないであろう”と予想しているが、高校生が予想しているほどは悩んではいない」ということが明らかになった。初任教師の悩みの解決法に関しては、初任教師は「ベテランの先生方にアドバイスをしてもらったり、自分で問題点を探り解決策を考えて試行錯誤を繰り返し挑戦することである」と捉えている。また、被初任教師観の回答から、初任教師は上述の捉え方のほかに「高校生は、初任教師は悩みを解決する方法が分からないため誰にも悩みを打ち明けず悩んだままでいたり、問題から逃避する姿勢であろう」と捉えていることも分かった。

3. 「初任教師のイメージ」に関して

初任教師のイメージに関しては、初任教師は「自己向上の意欲が高く勉学熱心であり何事にも積極的に挑戦する姿勢を持っている。そして、教師として働ける喜びの満足感を持ちつつ、個人の学習指導を親切・丁寧の説明する」といったポジティブで前向きな初任教師のイメージを抱いていることが明らかとなった。一方、被初任教師観の回答から、初任教師は「高校生は、初任教師はまじめであるが右往左往しておどおどしているイメージ感をもっているかもしれない」と捉えていることが分かった。

本調査に関心をもっている初任教師は78%であったことから、平成17年度に採用された $\frac{3}{4}$ 以上の初任教師は本研究が捉える“初任教師観”に関心をもっていることがわかった。この実数値の背景には、木原（2002）が指摘しているように、「初任教師の挫折はリソースの所在が分からないといった点で疲労し、自己研修の方策を心得ていないため自信を喪失しやすい傾向にある」のかもしれない。西口（2002）は、「教師は、日頃自分が教育源で拠り所にしてきた視点及びそれに基づいて形成されたパーソナルティーチングセオリーを他の教師のものと比較して見直すことができる」と指摘する。このことから、本研究が目的とする、多くの初任教師が抱く「初任教師観と被初任教師観」の共通性や差異性をより闡明にすることは、初任教師自身にとって自己の教師像をリフレクションする重要なリソース源となり、自己効力感やメンタルヘルスの向上に効果をもたらすことが考えられる。

今後の研究課題としては、初任教師を取り囲む人材に視点を変え、どのような初任教師観を教授される側の高校生自身は抱いているのか、そして、実務経験を積んだメンターの立場である教師がどのような初任教師観を抱いているのかを調査し、初任教師自身の初任教師観との共通性や差異性を闡明にすることが必要となるであろう。また、初任教師の成長のプロセスを長期に渡り支援する視点から、初任教師が経験を積む状況の中で初任期の前半に抱いていた初任教師観がどのように変化していくのかを時系列的に観察する研究も今後の研究課題として取り上げたい。

謝 辞

本論文の調査実施にあたり、ご理解ご配慮して下さった、県立甲陵高等学校の竹内景一校長先生をはじめ、初任の先生方が配属されている各高等学校の校長先生方に厚く感謝いたします。そして、お忙しい中を調査にご協力下さった各高等学校の初任の諸先生方に、この場を借りて心よりお礼申し上げます。

参考文献

- 秋田喜代美 2002 授業をイメージする 浅田匡・生田孝至・藤岡完治(編) 成長する教師 金子書房
 浅田匡 2002 教えることの体験 浅田匡・生田孝至・藤岡完治(編) 成長する教師 金子書房
 石川正典・中野明徳 2001 教師のストレスとサポート体制に関する研究 福島大学教育実践研究紀要 第40号 17-24
 伊藤美奈子 1995 教師の生徒観・教師観に関する一考察-理想の教師像による6タイプ間比較- 神戸国際大学紀要 第49号 26-34
 伊藤美奈子 2000 教師のバーンアウト傾向を規定する諸要因に関する探索的研究-経験年数・教育観タイプに注目して- 教育心理学研究 48 12-20
 木原俊行 2002 自分の授業を伝える 浅田匡・生田孝至・藤岡完治(編) 成長する教師 金子書房
 松田惺・鈴木真雄 1997 教師の自己効力感に関する基礎的研究 愛知教育大学研究報告 46(教育科学編) 57-65
 松本良夫・河上婦志子 1994 逆風の中の教師たち 東洋館出版社
 宗像恒次 1988 中学教師の燃え尽き状態の心理社会的背景 土居健郎監修 宗像恒次ら 燃え尽き症候群-医師・看護婦・教師のメンタルヘルス- 金剛出版
 西口利文 2002 自分の授業を知る 浅田匡・生田孝至・藤岡完治(編) 成長する教師 金子書房
 小川一夫 1985 教育と社会心理学 小川一夫編 学校教育の社会心理学 北大路書房
 落合美貴子 2003 教師バーンアウト研究の展望 教育心理学研究 51 351-364
 田村修一・石隈利紀 2001 指導・援助サービスの悩みにおける中学校教師の被援助志向性に関する研究-バーンアウトとの関連に焦点をあてて- 教育心理学研究 49 438-448
 田上不二夫・山本淳子・田中輝美 2004 展望 教師のメンタルヘルスに関する研究とその課題 教育心理学年報 第43集 135-144
 吉崎静夫 2002 授業の流れを予測する 浅田匡・生田孝至・藤岡完治(編) 成長する教師 金子書房